

平成28年度第1回JIS Z8210(案内用図記号)

改正原案作成分科会議事録

1. 日 時 : 平成28年9月8日(木) 14:00~16:15
2. 場 所 : 経済産業省 別館1階 114会議室
3. 出席者(敬称略): 児山 啓一(アイ・デザイン)、中村 祐二(自由学園)、尾崎 俊文(代理:西村研二、国土交通省)、平沢 善幸(国土交通省)、吉岡 幹夫(代理:新井昭人、国土交通省)、岸本 紀子(国土地理院)、福嶋 教郷(代理:奥田詩織、観光庁)、阿久井 薫(東京地下鉄)、伊藤 喜彦(代理:三原弘嗣、東日本旅客鉄道)、岩佐 英美子(日本ホテル協会)、熊谷 敦夫(全国ハイヤー・タクシー連合会)、滝澤 広明(日本民営鉄道協会)、竹島 恵子(交通エコロジー・モビリティ財団)、津田 吉信(日本旅客船協会)、中野 豊(日本標識工業会)、待谷 知康(日本観光振興協会)、村上 哲也(代理:村松俊輔、日本ショッピングセンター協会)、脇 光次郎(代理:大藤 純児、定期航空協会)、横原 寛(日本バスターミナル協会)、下川 明美(代理:小川マキ、東京都)、小西 慶一(日本身体障害者団体連合会)、久保 厚子(全国手をつなぐ育成会連合会)、永田 邦博(経済産業省)、中野 裕二(経済産業省)、星 純(経済産業省)、泉田 優介(経済産業省)、古野 毅(日本規格協会)、山崎 朋子(日本規格協会)、佐波 真紀子(日本規格協会)
オブザーバ:辻村 由佳(国際観光サービスセンター)、福母 淳治(日本障害者リハビリテーション協会)[いずれも本委員会委員]
欠席: 佐藤 英之(日本旅館協会)、高柴 和積(全国空港ビル協会)、中尾 謙吉(日本旅行業協会)、船戸 裕司(日本バス協会)、

4. 議事

1. 開会
2. 委員紹介 及び 実施計画の確認
3. 議題
 - (1) JIS図記号の ISO 整合化に関する考え方及びグループ分けについて(審議)
 - (2) JIS図記号とISO図記号の整合化の検討(審議)
4. その他
5. 閉会

5. 資料

- 資料 1 JIS Z8210改正原案作成分科会名簿
- 資料 2 JISとISOの整合化の考え方とグループ分け(コメント含むアップデート版)
- 資料 3 グループ D 及び E に分類される図記号の今後の対応案
- 資料 4 JIS Z8210図記号とISO図記号対比表(コメント含むアップデート版)
- 参考資料1 平成28年度 JIS Z8210(案内用図記号)改正原案作成委員会 実施計画書
- 参考資料2 図記号比較表(抜粋)ー日本、ISO、韓国、中国、デンマーク、オーストリア、英国、米国

6. 議事内容:

6. 1 開会

児山主査より挨拶があった。

6. 2 委員紹介 及び 実施計画の確認

事務局より、事務的事項の伝達があった。

- ・ 定足数の確認（22名出席で委員数の半数以上のため成立）
- ・ 資料の確認
- ・ 委員会の公開（資料、議事録の公開、原案作成分科会構成表として、お名前・ご所属が記載されること）

6. 3 委員紹介 及び 実施計画の確認

事務局より、この分科会から参加される委員の紹介をおこない、JIS Z8210改正に関する実施計画について、確認をおこなった。

6. 4. 議題

(1)JIS図記号のISO整合化に関する考え方及びグループ分けについて

事務局より、資料2に関して、以下を説明した。

- ・ 各グループ分けの説明(例示も含む)。
- ・ グループD及びEについては、対応案(ISOに合わせる等)が記載されているが、今回の分科会ではそこには触れず、どのグループにするべきかの決定のみをご審議いただきたい旨、発言した。その理由は、視認性試験・理解度試験等を実施しないと、最終的にどうすべきかの決定ができないものがあるからである。今後の対応については、それらの試験の結果をみた上で、改めて詳細も含めてご検討いただきたい。

児山主査より、今回の主題は、図記号のグループ分けについて決定していただくことであることが説明された。

視認性試験・理解度試験については、資料3に基づき、経済産業省 永田補佐から説明があった。

- ・ JIS図記号とISO図記号が整合していないと考えられるグループD及びEに分類した図記号、及び、整合しているとしたグループCの図記号についてもこの機会をとらえ、JIS図記号とISO図記号の両方の「理解度・視認性に関する試験」を実施する。ただし予算に限りがあるため、場合によっては、グループCは一部についてのみ実施となる可能性もある。また、これらの試験結果も含めて、総合的な観点から委員会で検討いただくことになる。
- ・ 対象者は、昨年度・今年度同様の試験を実施しているエコモ財団と同様で、日本人(高齢者・障害者を含む)、外国人(米国、英国、中国、シンガポール)とする予定。方法も、エコモ財団の

調査を踏襲してウェブ調査を予定している。

《いただいたご質問、ご意見など》

- ・ 現在のグループ分けでは、「表示事項」に近い JIS 図記号と ISO 図記号を比べてグループ分けをしているが、たとえば5. 4. 2の陸上競技場とISOのStadiumは並べているが、ISOのほうが上位概念である。この違いはどう考えるのか。
→ まずは「表示事項」を基準に確認していき、対応するISO図記号が同じことをいっているのかどうかを確認していきたい。その結果、ここのグループ分けでいうとグループFに分類することになるかもしれない。
- ・ 理解度・視認性試験の実施が、米国、英国、中国、シンガポールとなっているが、来日した外国人の方によりスムーズに理解していただくことが目的であれば、日本に多く訪問している国を対象とするべきではないか。例えば韓国や台湾などを対象に加えたほうがよいのではないか。
→ ご指摘いただいた韓国と台湾を加えて、対象国を検討する。
- ・ 視認性試験は、その図がつぶれて見えないかどうか、ディテールが読み取れるかどうかを調べるもの。理解度試験は、図記号を見て、それが何だと思うか回答させるもの。図記号は、それぞれの分野の代表的なものを表現するので、ディテールの表現はできない。単純化して、バスか鉄道か船か、といわれたら船だ、という認識でご覧いただきたい。
- ・ グループCについては、図材などが一部違うが機能のキー要素にならないものは、ISOと整合しているとみなすとして、ISOへの変更は行わずJISのままとする、と分類されている。今回見直し対象でない見込みのグループCについても試験を実施するということが、どういうことか。
→今回はグループCについても幅広く、このJIS改正の機会をとらえて、視認性・理解度に関する試験をやっておこうということになった。この結果、明らかに視認性や理解度がISOの方が高ければ、もう一度本委員会又は分科会でご議論いただき、ISOに整合させるかどうかを決めていくことになるが、既にJISになっているものについては、視認性・理解度は高いと認識している。
- ・ IOCやIPCから、オリパラの開催国に対して、ピクトグラムをISOに整合させるようにという要請は、今のところない。

(2) JIS図記号とISO図記号の整合化の検討

事務局より、資料4のページごとに、図記号のグループ分け(案)を確認。コメントをいただきながら、グループを決定していった。一部の図記号については、他の国の規格の例も参照しながら(参考資料2)検討を行った。最終的なグループは「資料4 0908修正版」参照。]

◆ グループの変更があった図記号は以下の通り。

- 5. 1. 18 コインロッカー グループC → グループBへ変更
- 5. 1. 22 キャッシュサービス グループC又はD → グループC
- 5. 1. 43 高齢者優先設備～5. 1. 46及び5. 1. 48～5. 1. 51 乳幼児連れ優先席等

グループB → グループAへ変更(日本提案ベースのISO図記号のため)

- 5. 2. 8 自転車 グループC又はD → グループC
- 5. 2. 15 手荷物受取所 グループC又はD → グループD
- 5. 4. 2 陸上競技場 グループE → グループF
- 5. 4. 8 キャンプ場 グループC又はD → グループD
- 5. 4. 10 コミュニケーション グループB → グループA(日本提案)
- 6. 1. 1 消火器 グループC又はD → グループC
- 6. 1. 2 非常電話 グループD又はF → グループD
- 6. 1. 3 非常ボタン グループC又はD又はF → グループF
- 6. 2. 2 火気厳禁 グループB → グループA

《いただいたご質問、ご意見など》

- 5. 1. 1案内所及び5. 1. 2情報コーナー
 - ・ 「i」のほうがわかりやすい、というのは国によって違う、という特徴があるが、形ではなく文字を使った表示であるためである。案内用図記号／ピクトグラム分野では、本来文字を使うことはあまりよくないが、他に表示のしようがなく、国際的にこれを使い始めた。IがInformationであるということは、単に習慣で、ここに行けば何か得られると学習できたから、と判断したほうがよい。昔から「i」マークを使っていれば理解度は高くなり、「？」を普段あまり使っていない国々では、何のことだかわからないのは当然のこと。
 - ・ 現場では混乱している。外国人には「i」のほうが、理解度が高いようであるが、JISを厳格に守ると情報コーナーは「i」、有人の案内所は「？」と使い分けなければならない。迷った末に、両方を付ける施設もある。
 - ・ 「i」と「？」を、JISの定義通りに使い分けているが、分かりづらいという声は聞かない。分からないときは「？」にいけばよいということはかなり浸透しているのではないかと感じている。

- 5. 1. 4 救護所

ISOの方は緑色にしているので、意味合いが違うのではないかと考える。ただ、JISのこの図記号は救護所としてずいぶん普及しているので、グループ分けではEでよい。

- 5. 1. 14 忘れ物取扱所

JISを決めるときに、忘れ物で多いものを調べたところ手袋は入っていなかったもので、図形から外した経緯がある。

- 5. 1. 15 ホテル／宿泊施設

この図記号は、実は日本の図記号を基にISOの図記号が作られた。

- 5. 1. 20 ミーティングポイント

この図記号は、日本・中国・韓国が共同でISOへ提案したもの。

- 5. 1. 36 シャワー

ISOの図記号を見て、細かくて視認性が悪いので、日本でシャワーヘッドだけで十分であるとしてJIS図記号を決めた。

- 5. 1. 43 高齢者優先設備～5. 1. 46 乳幼児連れ優先設備、5. 1. 48 高齢者優先席～5. 1. 51 乳幼児連れ優先席

これらはすべて日本から提案して、ISOになったもの。日本ではJISの図形として作成していますが、ISOに登録するときはISOの基本図形に合わせないといけないというルールがあるため、形を若干変えてISOに提案している。ただし、5. 1. 47の妊産婦優先設備、5. 1. 52 の妊産婦優先席については、日本の提案に対して当時のISOの中でちょっとわかりにくい、おなかがでていることを強調すべきという意見があり、最終的に韓国が提案した図形が採用された。

- 5. 2. 8 自転車

日本のJIS制定時に、これらが交通標識と揃える方が無難ではないかという意見があり、平仄を合わせるということで自転車のみとした、という経緯がある。

- 5. 4. 2 陸上競技場

日本がこれを作ったのは、ちょうど日韓共催のサッカーワールドカップの時期だったので、特にサッカー競技場と陸上競技場を区別する必要性があった。また、陸上競技場は、必ずしも立派なスタジアムだけでなく、アマチュアが使う河川敷もあるので、建物ではなく走る人の姿だけを描いたという経緯がある。それに対して、ISOのほうはスタジアムの位置を示すものになっている。

5. 4. 3のサッカー競技場と5. 4. 4の野球場がグループFなので、5. 4. 2もグループFにすべき。

- 5. 4. 9 温泉

- ・ これについては、以前から試験が実施されており、おそらく外国人に対して行えばISOの図記号のほうが理解度が高く、日本人に対して行えばJISの図記号の方が高い理解度が出るだろう。この扱いについては、日本の伝統的な図記号なので、ここで試験を行って、ISOに統合させるべきかどうかを議論するというのは、考えていただいた方がよい。あえて元々のもので特色を出していくことも重要で、それを考えるとあえてISOに合わせる必要があるのか。
- ・ 試験は実施した上で、結果現行のJISのままにすることもあるでしょうが、数値で明らかにしたい。

- 6. 1. 1 消火器

平成12年度にエコモ財団で標準案内用図記号ガイドラインを作成した際に、JISの消火器の図記号及びISOの消火器の図記号の理解度及び視認性の試験を実施した。ISOの理解度は91.2%、視認性は68.9点に対し、JISは理解度99.3%、視認性は77.5点だったため、現JISが採用になったという経緯がある。

6. 1. 3 非常ボタン

ISOの図記号は火災時における非常ボタンという意味合いが強く、対してJISはそれ以外の緊急時も含めた非常ボタンかと考える。列車の緊急停止ボタンについては、別委員会で検討する予定となっている。

6. 1. 4 附属書1. 1 店舗／売店

これらの図記号が、違う意味なのかどうかということが問題。ISOの方はShopping Facilitiesということで特定しておらず、JISのほうは、デパート、ショッピングエリア、土産品売場などの言葉が書いてある。グループFでよいと思われる。

6. 5. その他

- ・ 5. 2. 7「レンタカー」について、(一社)レンタカー協会がこの委員会で委員となっていない。理解度・視認性試験を行って、次回あたりから検討が始まると思うが、協会の意見も聞くことが必要。
→ 事務局より協会へコンタクトする。

- ・ 本日の検討結果に基づきグループC、D、Eについては理解度・視認性試験を行う。その結果を本委員会に報告することになる。次回は、10月終わり～11月に開催できるように、追って調整させていただきたい。
- ・ グループCとDはどちらに分類するべきか迷うことも多かったように思われる。グループCとDの定義についてはまた議論になると思われるので、定義の整理を再検討していただいたほうがよろしいのではないかと。
→ CとDで整合しているとみなすか、不整合とみなすかは大きな切れ目でもあるので、整理をしてみたい。

6. 6. 閉会

児山主査より、第1回 J I S Z 8 2 1 0改正原案作成委員会 分科会の閉会が宣言された。